

世界で活躍するピアニスト こどもたちに演奏を披露



6月24日、青葉小学校において、世界で活躍するピアニスト・北村明日人さんによる演奏会が行われました。

当日は、クラシック音楽の演奏のほか、ピアノの音が出る仕組みの説明なども行われ、こどもたちは目を輝かせて聴いていました。また、最後には北村さんの演奏に合わせて校歌を合唱するなど、終始和やかな演奏会となりました。

BRIDGE LIFE Platform構想 街びらき2周年記念感謝祭

本プロジェクトが令和4年5月の街びらきから2周年を迎えたことを記念し、6月2日に「2nd ANNIVERSARY FESTA!」を開催しました。

当日はあいにくの天気でしたが、数々のコンテンツの中でもBLPイベント初の「それいけ! アンパンマンショー」を、こどもから大人までみんなで楽しみました。



新たに1件の文化財を 市指定文化財に指定しました



6月3日、栗橋北2丁目の八坂神社が所有する「木彫額（地固め）嶋村俊明作」の1件を、新たに市指定文化財に指定しました。作品の詳細は市ホームページをご覧ください。

しょうぶっ子すもう教室



6月11日、菖蒲小学校において「しょうぶっ子すもう教室」が行われ、九重部屋の現役力士たちがこどもたちに相撲の楽しさを伝えました。この企画は、日本相撲協会の協力を得て、全国で6校しか行われないもの。当日は、実際にまわしを締めて、4人がかりで力士に挑むなど、こどもたちの笑顔であふれ、楽しい時間が流れました。

あやめ・ラベンダーの ブルーフェスティバル



6月9日～23日、菖蒲行政センター周辺で「第30回あやめ・ラベンダーのブルーフェスティバル」が開催されました。訪れた人たちは、爽やかな香りが一面に広がるラベンダー畑の前に、散策や撮影を楽しんでいました。

広報紙 × Instagram

あなたの写真を広報で紹介します!

#kukimemo

あなたのハッシュタグをつけてインスタグラムで投稿しませんか? \6月中に投稿された写真の中から選びました/

投稿者 撮影場所

ユーザー「[kuki_brand_info]」のタグ付けをお願いします!



【ラベンダー坂を下って】
@nagi.sutagram さん
しらさぎ公園



【空も飛べるはず!】
@chun2suzume さん
菖蒲行政センターラベンダー畑



【ラベンダーの香りに誘われて】
@haruurara3939 さん
菖蒲行政センターラベンダー畑



カタボケ限定!
カタログポケットで見たい号を選び、フォトニュースの#kukimemoコーナーで、左上にある「#kukimemo」の字をクリックすると、掲載しきれなかった写真のスライドショーをご覧いただけます。



#kukimemoの詳細は、市ホームページをご確認ください。



7月3日から紙幣のデザインが20年ぶりに一新されました。千円札には北里柴三郎、五千円札には津田梅子、一万円札には渋沢栄一の肖像が採用されています。久喜市出身の偉人である本多静六は北里や渋沢と繋がりがあり、渋沢との関係は第91回の記事市ホームページで公開中)でも紹介していますので、今回は北里との関係について紹介します。

本多と北里が出会ったのは明治25年(1892)のことでした。当時、本多は東京農林学校を卒業後、ドイツのミュンヘン大学に留学して、4カ年の大学課程を2カ年で修了し、博士号を取得しました。一方、北里は内務省衛生局からドイツに留学して、有名な細菌学者であるコッホに師事し、明治23年(1890)には破傷風の血清療法を確立しました。本多と北里の2人は、ともに留学を終えて帰国



破傷風の血清療法を確立した当時の北里柴三郎(学校法人北里研究所 北里柴三郎記念博物館所蔵)

する前のイギリス滞在中に出会い、一緒にアメリカに渡りました。北里はドイツ留学時にアメリカ人留学生の研究指導をしていたため、ニューヨークでは現地の医学関係者からの歓待を受け、本多も一緒にその歓迎を受けました。そして、病院や衛生試験所などの見学にも同行しましたが、一度別れて本多はカナダの大陸横断鉄道などを視察しました。このときの経験が、青森県にある日本最古の野辺地鉄道防雪林の設置に役立つことになりました。その後、カナダのバンクーバーで再び北里と一緒に帰り、同じ船で日本に帰国しました。帰国後も本多と北里の親交は続き、ドイツ留学時に親交を深めた共通の友人である後藤新平(内務大臣・東京市長などを務めた人)も交えて、度々会食を開きました。北里と同じ衛生局の技師から政治家へと転身して大成した後藤に対して、本多と北里は、「政治のことは後藤に任せて自分たちは学問の探求をやり通そう」と誓いあったのでした。

これから新しい紙幣を目にする機会も増えていきますが、今回のエピソードとともに親しんでいただけたら幸いです。

問 郷土資料館 ☎57・1200

連載 久喜歴史だより (第152回)

本多静六と北里柴三郎

ほんだせいりく きたさとしばさぶろう